

百八燈を終えて

コロナ禍での百八燈開催は、地域の皆様のご理解とご協力のもと、無事に行事を行うことができましたこと心より感謝申し上げます。

この行事をとおして子どもたちは、仲間と共に自主的に活動することの喜びや大切さを学び、学年の異なる集団の中で、互いに認め合い、豊かな人間性や社会性を身に付けることができると考えます。このように、子どもたちが成長する効果のある祭りごとは少ないのではないかと自負しております。

伝統ある祭りごとを受け継いでいくには、さまざまな困難もありますが、先代より受け継がれてきた『精神』や『絆』を大切にしつつ、その時代に即したやり方、考え方を取り入れていくことで、持続可能な環境を整えていくことができます。

来年こそはコロナ禍が明け、さまざまな心配事なく、多くの方々と共に百八燈行事を楽しみたいと願います。ありがとうございました。



猪俣百八燈 保存会長 ト部 正明さん

1年前の夏、「来年は自分が親方として行事を取りまとめるんだ」という強い決意をしました。

実際に親方になると、「歴代の親方はこんなにも大変なことをしていたのか」と思いました。1つ1つの作法や決まりごとを覚えつつ、自分よりも年下の子どもたちに指導し、百八燈の準備をしなければならなかったからです。ときにはプレッシャーに押しつぶされそうになりましたが、後悔はしなかったので一生懸命頑張りました。

歴代の親方をを超えることができたかな。

みんなの目にはどう映っているのかな。

こんな気持ちですかね。いずれにしても今は達成感でいっぱいです。高校最後の夏、こんなにも貴重な経験ができたので。

来年は親方が変わります。今の次親方や若衆組、子供組のみんなにはもっと頑張ってもらい、この伝統を受け継いでいてもらいたいです。



親方 岡本 拓真さん



いよいよ披露の時間です。練習の時よりも大きな声で挨拶し、力強い寄せ太鼓と笛の音が響き渡ります。披露が終わる頃、あたりは暗闇に変わり、百八燈行事の本番です。

猪俣氏の霊に拝礼後、提灯行列が、塚のある堂前山へと向かいます。頂上にある大きな塚に火が灯されたのち、百八の塚に次々と火が灯されます。百八の灯し火が、尾根に沿って帯のように長く燃え上がり、幻想的な光景が広がりました。



8月16日、採火式に参加しました！

「東京2020パラリンピック聖火」のもととなる採火式に参加しました。

採火後に、町長や教育長の前で寄せ太鼓のお囃子を披露しました。

いつもと違う環境での披露となりましたが、本番に向けていい練習ができました。

緊張したけど、楽しかったです。

